

Title	日本型パワーセンターの相対的立地と今後の可能性
Sub Title	
Author	野宮成晃(Nomiya, Masaaki) 大林厚臣
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1365号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1365

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

野宮 成晃
(エッソ石油株式会社)

主査 大林 厚臣
副査 池尾 恭一
河野 宏和

所属

大林 厚臣 研究室

日本型パワーセンターの相対的立地と今後の可能性

本論文は競争が激化し続ける日本の小売業界において、現在出店の方法のひとつとして注目を浴びつつある郊外型大型専門店の複合体（パワーセンター）に焦点を当て、その立地とマーチャンダイジングについて分析を試みようとするものである。

店を出し、商品を陳列すれば売れた高度成長時代と異なり、昨今の小売業界を取巻く環境変化は非常に著しいものがある。低経済成長の構造的定着、消費生活構造の多様化、競争の激化、価格破壊等がそれである。このような環境の下では、小売店舗はもはや従来のフォーマット、日本においては百貨店や大型総合店（GMS）では十分な収益を上げることが困難な状況になってきている。そのための解決策として、業種という壁を越えた大型専門店の郊外型複合体という新しいフォーマットが、小売店舗戦略の一つの方向として注目を集めているのである。

本論文で中心テーマとしているのは「郊外型大型専門店の複合体（パワーセンター）における核店舗のお互いにとって、最もプラスになる業種の組み合わせは何か」ということであった。このアイデアを中心とし、日本の既存の大規模パワーセンター（パワーシティ四日市、開発業者ジャスコ）について実地調査を行い、開発業者に対するインタビュー、顧客アンケートを通して問題点を抽出し、それらをアメリカのパワーセンターと比較することによって、今後の日本型パワーセンターに対する改善提案を示した。